

観光行事やイベントの運営など、加古川の魅力発信のまとめ役でもある加古川観光協会。今月は会長を務める大庫隆夫さん（当所副会頭）にお話を伺いました。

自由な発想・発言が取り入れられる協会に

これまで任意団体ゆえの制約などもありましたが、4月に一般社団法人として法人化したことから、自由な発想・発言を取り入れた民間主体の観光協会であるべきで、これからは収益事業や自由度の高い事業の実施など新たな一歩を踏み出したと言えます。

しかし現在、新型コロナウイルスや世界情勢悪化の影響で経済が安定しないなか、世の中を覆っている閉塞感を払拭する

変革期が来ており、「観光」にも発想の大きな転換が必要とされています。そこで必要となるのが若い人たちの

豊かな発想です。これは観光協会だけの問題ではなく、国や経済においてもいえることで、この激動の時代にどういった人材を見出し、育てていくのが、我々世代の役目と考えています。そして観光協会長としての私の役目は、これからの加古川の観光を変革させていく人たちが育つために、発言できる場を作り、時には行政・経済界との橋渡し役となることだと考えています。そのための観光協会長と商工会議所副会頭の兼務でもあるんですから。

ふるさと納税は地域振興の起爆剤

「加古川は何もない」という声も少なからずありますが、気付いていないものを見つけて出す、無ければ作り出せばいいと思います。

今、ふるさと納税が観光物産・地域経済の起爆剤として注目を浴びています。加古川商工会議所でも『ふるさと納税返礼品開発特別委員会』を発足させ、当協会とタッグを組んで盛り上げようとしています。ふるさと納税返礼品を発掘・開発し、どんどん発信することで加古川を知ってもらいたい。返

礼品をすでに提供している企業では新たな顧客獲得につながっている所もあると聞きます。また、一つの商品が目されると同じ市の他の商品も一緒に検索されるなど波及効果もあるため、企業もふるさと納税返礼品を「売り方の一つ」とも考えてほしいです。そして「この〇〇スゴいんやで」とスポットライトを当てるのが観光協会の仕事だと考えています。そうすることで「よし頑張ろう」「変えてみよう」という人や企業に出てきてほしいですね。

今までどおりではダメ

今は、これまでと同じことをやっているには生き残れない時代で、新しいことに果敢に取り組まなければ消え去るのみです。わが町を、企業を引っ張ってリードするような人が意見をぶつけ合える環境を作り、商業振興と観光振興につながる旗振り役になりたいですね。新しくなった観光協会は第一歩を踏み出したばかりです。これからどう変わっていくのか、どんなおもしろいことをするのか、どうぞ皆さんご期待ください！

観光、イベント・事業のお知らせは、観光協会HPをご覧ください。



大庫会長の好きな言葉「大夢」の額の前で

(一社) 加古川観光協会

おおくら たかお
会長 大庫 隆夫 さん

加古川を「楽しい街・美味しい街」にしたい